

学習内容と到達目標

☞ 日記を書く。書き言葉と話し言葉など、スタイルの違いについて考える。

指導のポイント

1. INTRODUCTION

第12課の復習。ステップ2での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①でイ形容詞やナ形容詞の変換ができなかったり、②で質問にすぐに答えられなかった時は、第12課の入念な復習が必要。

2. LISTENING

①では、リーさんが京都・奈良へ行ったのは22日(土)と23日(日)の2日間という設定で、出発前日の21日(金)の日記は非過去形で、帰福後の24日(月)の日記は過去形で書かれている。まずは、日記を読み、内容を確認させる。その後、②でCDを聴き、違っているところに下線を引き、普通体書き直させる(指示文では「wrong parts」となっているが、文法的に間違っているわけではない)。学習者が事前に予習をしている場合にはいきなり日記を普通体に変えて音読させてもよい。

3. FOCUS

①は知識の整理。巻末の文法解説を見なくても、[2. LISTENING]で書き換えた部分を参考にすれば、表を完成させられるはず。その後②で理解の確認をする。内容は半年前に遡り、リーさんが日本に来たばかりのころの日記になっている(17課でリーさんがアパート探しをしたのも半年前の4月5日だったということ。「普通は来日前に学生寮の入寮手続きをしておくのでは?」というツッコミはご容赦を)。

4. LISTENING

①と②では、話し相手が友だちの山川さんか先生かでリーさんの言葉遣いが変わっていることに注意を向けさせる。会話の内容は12課で話題にしたリーさんの京都・奈良旅行なので、内容の理解に大きな問題はないはずだが、聞き取りが難しいようなら、②の「先生との会話」を先に読み、内容を理解した上で聞かせるようにする。

③では、CDを聞く前に文の「意味」ではなく、使われている「形容詞」に注意を向けることを確認しておく。例えば、例では会話の内容が「どうだった?」「おいしくなかった」なので、「まずい」を意味する「b」ではなく、「おいしい」を意味する「a」が正解となる。その後に、今度は意味に注意を向けさせ、「a」ではなく「b」を選ばせる練習をするとよい。

⑤は2-31と2-32の再利用。これと同じような練習を第8課でしているので、難なくできるはず。学習ストラテジーを身につけた学習者なら、質問の部分を聞いて過去か非過去かを判断し、答えの部分を聞いて肯定か否定かを聞き取るものと思われる(例えば、2-31の場合「どう?」なら非過去、「どうだった?」なら過去)。学習ストラテジーのない学習者は、8課で一度経験していても、戸惑うかもしれない。

5. PAIR WORK

学習者の一方（質問する側）に図のようなカードを持たせ、最初は友だち同士という設定で会話をさせる。そして、話の途中で質問する側の学習者にカードを裏返させ、設定を「友だち同士の会話」から「学生と教師の会話」に替え、スタイルの切り替えの練習をする（カードを持つ側が多少意地悪な学生だと盛り上がる）。

表

友だち

裏

先生

6. WRITING

普通体を使って日記を書かせる。宿題でよい。

活動例

- ☞ 学習者にとっては各品詞の普通体を覚えるだけでもかなりの負担なので、ここでは [5. PAIR WORK] と [6. WRITING] をじっくり時間をかけて練習すれば十分。この課で完全にマスターさせようなどとは考えずに、これ以後、定期的に日記を書かせたり、(会話の練習の時) 相手との関係を意識して話させるなどして、徐々にスタイルの使い分けができるようにしていくことが重要。